

サーモカメラによる子牛の体温管理を中心とした地域全体でのスマート畜産実現に向けた実証（概要）

【実施事業者】

□NTTドコモビジネス株式会社（本社 東京都千代田区/代表取締役社長 小島克重）

【実証概要】

□サーモカメラで子牛の相対的な体表温度を常時監視し、体調の悪い子牛を早期発見し、早期治療に繋げ、子牛の死亡率を下げるサービスを創出するための実証事業。

【実証フィールド】

□株式会社敷島ファーム（本社 栃木県那須郡那須町/代表取締役 高田正樹）
那須第二牧場（栃木県那須郡那須町高久丙1796）

【日程】

令和7（2025）年11月14日（金）10:30~12:00

*一般の方は見学できません。

取材を希望される場合は栃木県産業政策課まで御連絡ください。

*取材は、1社2名以内といたします。

【実証事業の詳細】

栃木県における畜産業の重要課題である子牛の高い死亡率に対し、ICT技術を活用して早期発見・早期治療を可能にする新たなソリューションの導入を目指す実証。

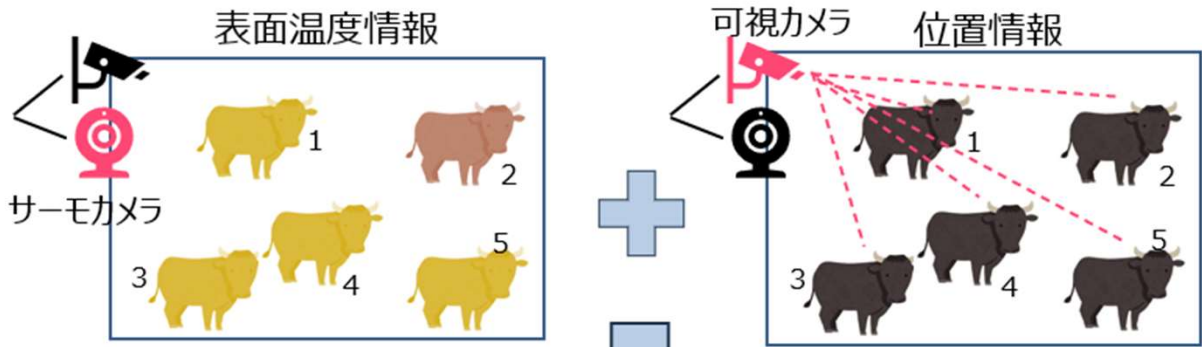
具体的には、サーモカメラと可視カメラを組み合わせることで子牛の相対的な体表温度と位置情報を常時監視し、発熱の兆候を検知することで、従来の目視での監視では見逃してしまうような疾患の兆候等を早期発見するシステムを開発する。

本技術は、子牛にセンサを装着せずに体表温度を把握する、実現すれば日本初となる取り組みで、タムロン社が開発した遠赤外線カメラを活用し進められている。本実証では、気温等の外部環境による補正係数の季節変動の検証、深部体温との相関分析、発熱判別ロジックの構築などを行う。また、マルチGW（ゲートウェイ）を活用し、複数のIoTデータを一元管理することで、農家・JA・自治体・獣医など地域全体での見守り体制の構築を目指す。

敷島ファームでの試験導入を皮切りに、県内展開、さらには全国展開を視野に入れたサービス化を進めており、スマート畜産のモデルケースとしての確立を目指している。

【イメージ】

①サーモカメラによる子牛体温監視サービス



⚠ 牛2の体温が高い可能性があります。経過を観察してください。

Point

管理者が目視でわかるよりも早く、
体調不良の初めの段階でアラートを出す

②マルチGWを活用した「牛の状態」と「現場環境」の見える化

